

YAKUDO

県青連がお届けする。青年部の熱い想い、事業報告や青年部のご紹介。

埼玉県商工会連合会

2021 [躍動]

vol.57



知行合一

埼玉県商工会青年部連合会 第25代会長 時枝 宏幸

ブロック報告

第1ブロック	ブロック長	岩沢 純
第2ブロック	ブロック長	大滝 真悟
第3ブロック	ブロック長	岩崎 元治
第4ブロック	ブロック長	渡辺 誠二

青年部紹介

戸田市商工会青年部	部長	松原 涼丞
越生町商工会青年部	部長	松本 裕一
ふかや市商工会青年部	部長	大澤 宏貴
宮代町商工会青年部	部長	川野 達則



埼玉県商工会連合会 会長

三村 喜宏

青年部の皆様には、日頃から県連合会の事業運営、並びに商工会の地域振興事業・社会福祉活動などにおいて、大きな役割を果たされており、ご支援ご協力に対して厚くお礼申し上げます。

未だ新型コロナウイルス感染拡大の収束が見えない中、中小企業・小規模事業者にとっては、コロナ後の各種事業の展開やデジタル化推進への対応、新しい生活様式に対応した働き方改革など大きな課題が山積しております。

商工会地域においても、少子高齢化や労働人口の減少などにより、厳しい経営環境におかれています。

こうした中、地域経済の再生を通じて本県の経済成長を確固たるものとするため、商工会は組織一丸となり、地域経済を索引する中小企業・小規模事業者の持続的発展を支援する必要があります。

青年部の皆様におかれましては、今あらゆる産業において業務の効率化を目指して求められている DX（デジタルトランスフォーメーション）に積極的に取り組んで頂き、地域の若手後継者として更なる飛躍をして頂きたいと考えております。

県連合会としましては、この難局に対処するため、本会の二〇二一年のテーマであります「心を一つに、新たな時代へ」のもと、中小企業・小規模事業者の経営支援を一層強化し、商工会の事業推進を積極的に支援していく所存です。

結びに、県青連並びに各商工会及び青年部の益々のご発展と皆様方のご健勝、ご繁栄を心からご祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

心を一つに、 新たな時代へ

知行合一

皆様には日頃より県青連事業にご理解ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの脅威が続く中で、収束に向け待ち望んだワクチン接種が始まりましたが、まだまだ感染防止対策を怠らずに我慢の時期が続きます。感染症から医療を守るためには人を動かしてはいけない反面で、経済を動かすには人を動かさないといけない、事業者として我々に出来る事は何かを真剣に考えさせられました。

このような情勢の中、今では当たり前となった WEB 会議など、IT 活用の有用性に理解が深まり、働き方の多様性が見出されるなど、振り返ると大きな時代の変革が促されたように感じます。我々商工業者としては、小規模事業者が取り組める DX とは何かを考え、課題となる IT 人材不足と従来の手法や古い基幹システムへの執着から時代の変化に目を向けた取り組みが求められています。

我々事業者は単に維持することを目指した時点で衰退の始まりとなり、コロナ禍においてもただ耐え忍ぶだけではいけません。県青連が掲げた【知行合一】のスローガンには、「本当の知識とは行動が伴うものであり、頭で理解するだけの知識を詰め込むだけではなく行動を起こさなければならない。」と、一歩踏み出す行動力に期待し、行動が制限される中においても「知恵を絞り、創意工夫をもって行動するための議論を止めないで欲しい」という想いを籠め、地域に求められことは何か、仲間のために出来る事は何か、そして未来に何を託すかをこれまで以上に議論することが出来た令和 2 年度だったと思います。

中止事業も多く皆様のもとへ足を運ぶことが出来ずに悔しい想いもありますが、これまで支えてくださった同期理事や日頃よりご支援くださった皆様のお陰で、任期改選の節目を清々しい気持ちで迎えることに心より感謝申し上げます。新体制となる令和 3 年度も楽しみな顔ぶれが揃っていますので、倍旧のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



埼玉県商工会青年部連合会 第25代会長

時枝 宏幸

Hiroyuki Tokieda

雲外蒼天

一歩踏み出す先にある輝く未来

コロナ過という大変厳しい状況の中ではありませんでしたが、ZOOMを使用しての代表者会議では毎回、しっかりとした情報交換をすることが出来ました。改めて第1ブロックの部長様をはじめとする各単会の皆様には心から感謝申し上げます。ブロック事業はすべて中止ということになりましたが、担当の県青連チャリティゴルフを様々な工夫を凝らして開催できたことは大きな経験となりました。ご参加いただきました皆様ありがとうございます。

各単会大変厳しい運営を迫られておりますが、今は屈みの時と捉え、困難な状況の先に素晴らしい未来があることを信じ、今後更なる輝きを放つ事をご祈念申し上げます。

1st

第1ブロック ブロック長

岩沢 純

Jun Iwasawa



繋

繋ぐ・繋がる・繋げる

第2ブロックでは繋がりを入り口に全 17 単会より役員を派遣して頂き活動してまいりました。今年度は事業がほぼ出来ない状況となりましたがブロック役員全員が最後まで会議を重ね 1 年目の反省点を踏まえ取り組んでできました。Zoom 会議がメインとなりましたが役員全員が意見を重ね、また各地域の現状報告も行ってきました。

県青連としては研修委員会を担当し、リーダー会議・指導者育成講習会を初の WEB にて開催し多くの部員に参加頂きました。青年部活動情報共有システム「青ログ」も2ブロック内で活用してきましたが県青連での活用とし、より大きなスケールに出来る事となりました。こちらを埼玉県部の部員が活用して頂ければ、より多くの繋がりが見られる事と思います。

2年間の活動を通して、多くの部員の皆様には大変お世話になりました。

スローガンである「繋ぐ・繋がる」は今年度発揮出来ませんでした。2 年間の実績で2ブロック役員全員が次世代に「繋げる」事が自信をもって出来たと思います。

今後の2ブロック、県青連がさらに発展することをお祈りし、2 年間の感謝を心から申し上げます。

2nd

第2ブロック ブロック長

大滝 真悟

Shingo Otaki



気づき

活動できなかったからこそ

第3ブロックでは、この2年間「単会の為に何が出来るか?」を第一に考える」をスローガンに各事業を行ってまいりました。

2年目は残念ながら殆どの事業が中止となりました。

しかし乍らそのような環境下においても、第3ブロック各単会は決して活動を止めることなく、HP刷新やWeb会議、動画配信の研修会といった新たな活動を展開し環境変化に臨機応変に対応してきました。

その結果の一つとして、ふかや市商工会青年部が広報コンクール「特別賞」を授与されたことをとても嬉しく誇りに思います。

「イベントを延期・中止すべきか?」「リスクを取ってまで集まる必要があるのか?」等の検討は事業の目的を見つめず機会を得たり、Web会議・配信など新たな活動につながったとも言えます。また、助成金・補助金等の支援策活用においても、商工会の存在がこれまでに大きく感じられました。

私達にとって、活動をしなかった一年ではなく、商工会や青年部の存在意義を実感できた一年だったのではないのでしょうか?

この異例で困難な年度を共に乗り切ったすべての青年部員と商工会職員の皆様に感謝と敬意を表し挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

3rd

第3ブロック ブロック長

岩崎 元治

Motoharu Iwasaki



温故知新

4ブロックでは、「温故知新」という活動方針を掲げ、各地区・各単会の皆様に沢山のご協力を頂きながら活動し、各事業を行ってきました。しかしながら今も続く新型コロナウイルスの影響で予定されていた事業が相次いで中止となり例年とはまったく違う1年でありました。新しい取り組みとしてWEB会議を導入しました。ブロック会議や地区会議などWEB会議を交えて開催してまいりました。新しき世界の中で時代に合わせ活動を繋げていければと思います。最後に本年度も各単会の部員の皆様にはブロック活動、各地区活動にご協力いただきましたことをこの場をお借りして感謝申し上げます。

4th

第4ブロック ブロック長

渡辺 誠二

Seiji Watanabe



第1ブロック



戸田(とだ)と戸田(へだ)? 戸田市商工祭

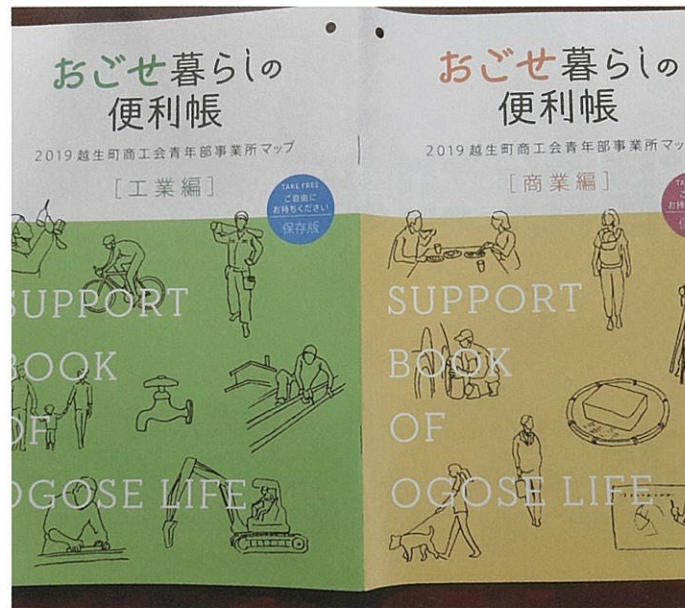
戸田市商工会青年部 部長 松原 涼丞

1st

戸田市商工会では毎年10月の第4土曜・日曜日に「商工祭」を開催しています。毎年、青年部長が実行委員長となり運営・組織をとりまとめます。商工祭は我々戸田市商工会青年部を市民に知っていただく貴重な機会でもあります。そこで青年部としては、ステージショーの運営、名物かすうどんの販売、スタンプラリー、など多種の出し物で市民の皆様をお迎えし青年部の魅力を訴えています。その中でもユニークなのは「深海魚まつり」です。深海魚の水揚げで有名な静岡県沼津市戸田(へだ・旧戸田村)は戸田と字が同じであったため様々な交流があります。青年部では集まった子供たちに日頃見慣れない、深海魚を実際に見て、触ってもらい海の魚の多様性を知ってもらおうという事業を行っています。ひとくちに深海魚を戸田市に持ってくるといってもそのまま海のないうまき県に運ぶのには相当の苦労がありますが、子供たちが興味津々、喜ぶ姿を見るとそれまでの苦労が吹き飛びます。祭りの後の充実感と美味いビールを味わうべく今年も頑張ります。みなさまの応援よろしくお願い致します。



第2ブロック



『おごせ暮らしの便利帳』を発刊 情報誌で地域の活性化を促進

越生町商工会青年部 部長 松本 裕一

2nd

越生と書いて「おごせ」と読みます。読み方がわからなかった方はこの機会に覚えてください。今年度関東大会顕彰に受賞させていただきました『おごせ暮らしの便利帳』による広報活動を行い、愛する地元「おごせ」のために日々活動を行っております。また、毎年5月2週目の土曜日に開催される商工会主催の『世界無名戦士花火大会』は迫力満点の花火が見られ、青年部として運営のサポートを行っています。さらには、6月に開催される『梅フェア』では絶品の『梅コロッケ』を青年部として販売し、お客様にはご満足いただいております。こんな素晴らしい「おごせ」にぜひ遊びに来て下さい。ちなみに、越生といったら『越生梅林』、『黒山三滝』、『上谷の大クス』の観光がオススメです。



第3ブロック



ウィズコロナ時代の 青年部像

ふかや市商工会青年部 部長 大澤 宏貴

3rd

未曾有のコロナ禍の中、本年度は活動の縮小を余儀なくされました。しかしながら、地域振興の灯を絶やすわけにはいかず模索しながらの一年となりました。本年度、対外的に行った唯一の事業が「サンタ事業」でした。一時期は開催も危ぶまれましたが、地域からの期待も大きく感染対策を万全にして臨みました。結果、メディアにも大きく取り上げられ大成功を収めました。また合併して10年が経りましたが組織の縦軸である支部毎では充実した事業が数多くありました。逆に弱点として見えてきたのが、横軸での組織の脆さでした。今年度は事業ができない分、横軸の委員会制度を充実させ実のある活動を目指しました。縦軸と横軸でより強固になったふかや市商工会青年部はこれからも若手経済人として地域を引っ張って参ります。



第4ブロック



青年部飲食店による お弁当テイクアウト事業

宮代町商工会青年部 部長 川野 達則

4th

宮代町商工会ではこのコロナ禍で出来ることは何か?と考え、部員の3分の1以上が飲食関係の我々だから出来ることを!という思いでお弁当テイクアウト事業を、7月~9月の間に計4回行いました。密を避けるという絶対条件の中、事業実施までにクリアしなければならない課題が多くありました。社会福祉協議会から開催方法を提案頂き、食中毒のリスクがある時期なので保健所の指導を仰ぎながら、無事中学生以下のお子様を持つ家庭の202名に宮代町青年部員店舗の味を提供することが出来ました。今年度はコロナ禍で自粛ということもあり、家庭でも新たなストレスがかかっているものと思われます。購入頂いた皆様から様々な嬉しい声が聞けて、制約が多い中、少しでも生活に彩りを加えたり、やりがいを感じる事が出来ました。今後も、この地域を担う世代を育成するため、我々がどのような事業や青年部活動を行っているのか周知するために今後も頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。



商工会青年部 資質向上研修会をWEBセミナーにて開催 指導者育成講習会・リーダー会議



埼玉県商工会青年部連合会スポーツ交流大会 結果報告 熊本豪雨災害へ20万円のチャリティ支援



感染防止策を講じた受付

熊本県商工会青年部連合会からの支援金に対するお礼文

青年部福祉募金運動

埼玉県内の商工会青年部・女性部では、毎年、福祉活動の一環として募金活動を行い、埼玉県シラコバト長寿社会福祉基金等に寄付しています。商工会青年部・女性部から寄せられた募金の一部を寄付した。

寄付金は、県が行う障害者地域生活サポート事業、豊かな地域福祉づくり推進事業、福祉ボランティア活動支援事業に活用されました。例年行われている県知事からの感謝状贈呈式については新型コロナウイルス感染拡大防止のため行われませんでした。

県青年部連合会より募金25万円を贈呈し、感謝状を頂きました。令和2年度までのシラコバト基金への青年部寄付金額は15,576,223円になります。

また、県女性連と共に昭和57年より始めた募金活動は令和2年度までで総額30,156,618円になります。青年部では今後も「社会一般の福祉の増進に努める」ため、社会貢献活動に力を入れていく所存です。皆様の御協力を宜しくお願い致します。

県商工会青年部連合会は、3月16日(火)、青年部員82名の参加のもと、令和2年度指導者育成講習会・リーダー会議をWEBセミナーにて開催した。

指導者育成講習会では、時枝県青連会長が県青連事業について報告を行った後、株式会社ディセンタ― 代表取締役 折原 浩氏が「経営セミナー～渋沢的「企業と地域の関係性」」と題して講演を行った。折原氏は、日本資本主義の父と評される渋沢栄一翁の8つの言葉を超訳して先人から学ぶ経営者としての考え方を青年部に語った。

指導者育成講習会では、全国商工会青年部連合会 相談役 越智俊之氏が「全青連会長がみた最強の組織とリーダーシップ」と題して講演を行った。越智氏は、コロナ過、緊急事態宣言の中いろいろなことを模索して青年部活動を継続している青年部員に感謝を述べ、全青連会長を経験した立場から、青年部活動に意義を見出すきっかけ、部員から部長へ、青年部を通して成長していく当時の自身の心境の変化を振り返りながら、持続的努力の大切さを説いた。

令和2年9月23日(水)、滑川町「おおむらさきゴルフ倶楽部」において、令和2年度スポーツ交流大会(チャリティーゴルフ)が開催され、大会には県内の総勢83名の部員が参加し、交流を行いました。

今年度は、コロナ過の中での開催となり受付では検温、接触確認アプリ「cocoa」の確認の徹底、パーティションを設置し対応、参加者についてはクラブハウス内でのマスクの着用を徹底しました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からコンペ及びパーティーは、行わない形で開催となりました。

7月に発生した熊本豪雨災害へ支援金を送る目的で開催したチャリティ募金では、総額120,700円が集まり、県青連福祉会計からの拠出分と合わせて200,000円として熊本県青連への支援金に活用させていただきました。

この度、熊本県青連より御礼状が届きましたのでご報告致します。御協力頂きました青年部員、事務局の皆様、心より御礼申し上げます。



昭和52年、埼玉県は「だれもが幸せに暮らせる地域社会づくり」を目的に、「シラコバト福祉基金」を設置しました。

この基金は、県の出資金のほか、みなさまからの寄附金により育てられ、平成3年にはこれからの高齢社会に備えるため、「シラコバト長寿社会福祉基金」に発展しました。

広報コンクール

2020年度県青連 広報コンクール審査会

日時：2021年2月5日(金)18:30～

会場：zoom (WEB 審査会)

参加者：特別審査委員長 株式会社オズマビジュアル 鈴木 元康様
審査委員会実行委員長 第4ブロック長 渡辺誠二
審査委員 県青連正副会長および第4ブロック役員

審査結果	
最優秀賞	八潮市 商工会青年部 ※以下略：商工会青年部
広報誌部門優秀賞	富士見市、久喜市、蓮田市
広報活動部門優秀賞	久喜市、幸手市、吉川市
審査員特別賞	鳩ヶ谷、ふかや市

※表彰式は5月12日(水)に開催を予定している県青連通常総会の場で行わせていただきます。

最優秀賞は今年度も広報誌部門と広報活動部門の両部門にて、高い評価を獲得した、八潮市が受賞。今年度の最優秀賞受賞で、八潮市はV11となりましたが、広報誌部門は引き続き、高いクオリティと意識で最高評価だったのに対し、広報活動部門は、他の単会の広報活動が積極的なこともあり、拮抗した評価でした。それでも、総合評価で八潮市が高い評価であり最優秀賞受賞となりました。

優秀賞は、広報誌部門にて、富士見市、久喜市、蓮田市が受賞、広報活動部門にて、久喜市、幸手市、吉川市が受賞。久喜市は、八潮市同様に、広報誌と広報活動部門の両方で評価を獲得し、両部門での優秀賞受賞でした。

特別賞は、今年度の特別賞は、鳩ヶ谷市とふかや市の2単会が受賞。鳩ヶ谷市は、とても見やすく、読みやすい誌面と、発行部数、さらにはコロナ禍を考慮した編集内容の広報誌を評価。ふかや市は、初めてのエントリーでしたが、コロナ禍でもしっかりと総合的な広報活動を実施し、成果も得られていた点が、高評価となりました。

広報誌部門に関しては、優秀賞となった、富士見市、久喜市、蓮田市の3単会のうち、富士見市と久喜市は例年の優秀賞受賞となり、八潮市同様、例年クオリティの高さを維持し、優秀賞受賞の常連となっています。蓮田市は、昨年度から少しリニューアルしましたが、引き続き、部員がプロの仕事で見やすく仕上げているクオリティの高さと、コロナ禍の事業継続のため、事業所MAPを作成した点などを評価し、高評価を得ました。

広報誌は、単に青年部の言いたいことを一方的に発信するだけでなく、その情報の先にいる読者を意識できるか、できないかで、伝え方が変わるといいますし、より素敵な広報誌を目指すのであれば、その意識を常に持つてほしいと思います。来年度は、まだコロナ状況も続きながらの活動になることも予想できますので、そのような中でも、広報誌で何を伝えるべきか、どう伝えるべきかにこだわった広報誌が、多くの単会から応募されるよう期待します。

広報活動部門に関しては、コロナ禍の影響もあってか、さらにWEB中心のエントリーが多く、HP、Facebook・Instagram、Youtubeなどの活動に寄ってしまった印象です。昨年度の講評でも触れていますが、HPや、SNSは自分たちで好きな時に情報発信できるので、手軽ですが、その分、それだけで満足してしまっている単会が多いと感じました。本当ならば、広報活動は、その活動内容と成果検証はセットで考えるべきです。活動により発信した情報が、HP、SNS、メディアへの情報提供などを通じて、どれだけ多くの人に伝わったのかを、まず検証する必要があります。さらには、その情報に触れた人が、青年部に対して良い印象を持ったり、理解を示してくれたり、何かリアクションをしてくれたら、さらに良い広報活動だったと言えます。自分

全体審査講評

今年度、令和2年の広報コンクールは、新型コロナウイルスの影響により、政府より緊急事態宣言が出された状況下での審査となりました。コロナ禍で、青年部活動はもとより、部員の皆様の事業継続でさえも、厳しい状況の中、16単会とエントリー数は昨年度よりもトータル6単会減ってしまいましたが、それでも、この広報コンクール自体を継続できたことは、各単会の広報意識の高さ・熱意のおかげであり、とても素晴らしいことだと思います。

今年度の審査は、直接集まることを避け、ZoomによるWEB会議開催ということを除けば、連年同様、審査委員の皆様で議論を交わし、構成、レイアウト、写真、内容・主張など、様々な要素を総合的に審査し、採点をおこないました。なお、審査委員会では、今年度、広報誌部門と広報活動部門の両部門を合わせた中で最も優れた単会を、最優秀賞として選出。その後、広報誌部門と広報活動部門の優秀賞をそれぞれ3単会ずつ、さらに、審査員委員会による特別賞として、2単会を選出しました。広報誌部門も、広報活動部門も、今年度の傾向としては、やはり、コロナの影響が大きく、各青年部の事業活動の多くが中止になってしまうなど、各単会は広報誌制作や広報活動で発信する情報の元となる活動が少なく、それぞれ考えながら、エントリーされている状況が見えました。

たちが実施した広報活動で発信した内容がどれだけ情報拡散したか、成果が出ているかを分析することは、次の広報活動の課題になるので、ぜひ意識してもらえたらと思います。

そんな中、今年度、広報活動部門で受賞となった、久喜市、幸手市、吉川市は、HP、SNSはベースにしつつ、コロナ禍でもできることを考え、複合的な活動を実施している点が評価され、受賞となりました。多くの単会が、HPでの情報発信と、Facebook、InstagramなどのSNSでの投稿が基本活動だったため、それだけでは広報活動部門では高評価の獲得は難しい状況です。広報活動部門で高評価を獲得するには、どんな活動をおこない、外部・内部含め、各青年部の伝えたいことをいかに広めたか(良い反応が得られたか)が、活動のポイントになると思いますので、エントリーの際は活動の内容とその結果を必ずセットアピールするよう、心がけてください。

青年部が発信する情報の中で、最も、広報活動のネタとして、情報発信しやすいのは、皆さんもご存じ通り、青年部の事業です。それは、地域の皆さんとも触れ合う場であり、情報発信した際に、発信する側の青年部にとっても、情報を受け取る地域の皆さんにとっても、青年部という存在・イメージを伝えやすいもの・伝わりやすいものだからです。では、「青年部事業の自粛による中止」＝「広報活動するネタがない・活動できない」ということでしょうか。

本来、広報活動とは、「**企業や団体が自分たちの情報を発信し、広く知らせ、理解や共感を求める活動**」ということです。つまり、自分たちを理解・共感してもらうために、情報発信することであり、「青年部事業」は、青年部を理解してもらうための広報活動の一つのネタ(切り口)であり、事業以外にも伝えたいこと、理解してほしいことは、必ずあるはずです。このコロナ禍だからこそ、今、青年部が広報という形を通して、部員や地域の人に伝えられることは何か、助けや、支えになることは何かなど、考えてみることも、今できる広報戦略のひとつと言えるかもしれません。そして、その考えた過程は、きっとコロナが収束し、再び普通に青年部の事業活動ができるようになった時に、必ず、プラスになっていると思います。

広報活動は、世の中や情報の受け手の状況、つまり、情報発信の環境に合わせて、自分たちの伝えたいことを分かりやすく・理解してもらいやすく変換して、発信する必要があります。イベント・外出・営業の自粛といった環境下では、「事業ができない」＝「広報ネタがない」と狭く捉えるのではなく、青年部が地域の役に立ち、伝えたいことで、かつ、読者が知りたいことを広く考え、それをどういう形や方法で伝えたらよいかを考えながら取り組み、来年度の広報コンクールがさらに活況になることを期待します。

2020年度 事業目標「経営革新推進運動」

県青連では、各単会の経営革新の承認件数を、年度あたり3件を目標に推進しました。

経営革新のメリット

1 様々な支援措置を受けることができる。

国や県から「がんばる企業」として公認を受け、様々な支援措置を優先して受けられるようになります。

2 対外信用度、認知度がアップする。

経営革新承認企業であることを積極的に公示することで、他者評価が向上します。

3 中小企業施策を活用する道が開ける。

経営革新計画の承認を得ると、経営革新支援策のみならず、その他の中小企業施策の情報についても敏感になり様々な情報を入手することが可能になります。

4 事業の現状や課題を見極めることができる。

経営革新計画では、3～5年の中長期計画を立案するため、経営目標が明確になり、自社の課題が目に見えるようになります。

5 組織力を向上させることができる。

経営者自身が計画を紙面に落とし込むことで、計画が目に見えるものとなるため、経営方針が全社員に浸透し、モチベーションアップにつながります。

6 内外に対する説明資料となる。

経営革新で作成するビジネスプランは、社内・社外の関係者への説明資料となります。ビジネスプラン等を積極的に情報開示していくことで、相手へ事業への理解や協力体制を生み出しやすくなります。

7 経営計画をより磨き上げることができる。

計画の作成及び審査を受ける過程で、自社の計画に対する第三者的な意見を把握することができるため、計画の更なる充実を図ることができます。

POINT.1

信用力が向上！

金融機関への信用力が向上した。

取引先からの信用が増した。

POINT.2

経営計画に転換！

経営計画の手法を習得できた。

夢の実現に向けた、具体的なスケジュールを作成できた。

POINT.3

知名度が向上！

県のHPに掲載されてから、問い合わせが増えた。

営業活動の際の話題提供に活用できた。



県青連時枝会長「経営革新の令和2年度の目標」

本年度、埼玉県青連では各単会において経営革新の承認取得を図り、新規承認に向けた取り組みに寄与するという大きな目標に向って取り組んで参りました。今年度は、新型コロナウイルスが猛威を振るう厳しい経済環境の中で活動自粛期間を含めた取り組みとなりましたが、ご家族や事業所存続を優先にしながらも、事業経営者・後継者として有益な取り組みとして継続的な運動にご協力いただきました。経営革新計画は、県内青年部員にとって確実にその意義は浸透していると様々な所で話をさせていただいて感じております。大切なことは何のために経営革新を取得するのかという意義です。経営革新の取得は、取得自体が目標ではなく、計画書に記載した5年間において「計画経営を行う」ことが本来の目的です。来年度もその意義をさらに浸透させていきまして推進していきます。

編集後記

「躍動」を発行するにあたり、ご寄稿いただいた記事を通して青年部活動への想いを乗せ紙面に力を与えていただいた皆様、紙面づくりにご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

本年度も皆様のご期待に応え、オールカラー版にて発行させていただきました。カラフルな紙面でお楽しみ頂けたでしょうか。本年度は、コロナ禍により中止となる事業が多

く、直接会う機会も減りました。しかし、青年部の絆を再確認する、良いきっかけともなったと思います。

来年度も、皆様のたいなるご活躍とご発展をお祈りするとともに、この広報誌「躍動」が皆様の青年部活動に対しまして、一助になることを祈念しております。2年間に難うございました。

広報委員長 渡辺 誠二